

広島県子育てサポートステーション いくたす

年間活動報告

(2014.04.01～2015.03.31)

「広島県子育てサポートステーション運営事業」
委託運営：社会福祉法人昌和福祉会

<目次>

| | |
|--------------------------------|----------|
| (1) 広島県子育てサポートステーション事業 概要 | ・・・2～3 |
| (2) 広島県子育てサポートステーション事業 利用状況 | ・・・4～8 |
| 柱①親子のつどうひろば | |
| 柱②子育て相談 | |
| 柱③一時預かり | |
| 柱④子育て講座 | |
| (3) 様々な 県関連事業とコラボレーション事業 | ・・・ 9 |
| (4) いくたすおもちゃ館の取り組み | ・・・10～11 |
| (5) 地域医療機関との連携 | ・・・12 |
| (6) 地域の様々な子育て支援に携わるグループとの交流 | ・・・13 |
| (7) 子育て家庭への保護者アンケートの集計からみえること | ・・・14～21 |
| (8) 子育て支援活動施設見学・実践交流会実施内容報告 | ・・・22～28 |
| (9) 広島県子育てサポートステーションいくたすの成果と課題 | ・・・29 |
| (10) 子育て支援活動全体における、今後の課題 | ・・・30 |

(1) 広島県子育てステーション事業 概要

○子育てサポートステーション いくたす福山

住 所 〒720-8524 広島県福山市入船町3-1-60 イトーヨーカドー福山店内(2F)駐車場完備
連 絡 先 TEL:084-931-6606 Email: ikutas@urban.ne.jp
スタッフ数 8名 うち常勤スタッフ(2名 ※保育士) パートスタッフ(6名 ※5名保育士 1名幼稚園教諭)
設 備 面積:約100㎡ トイレ給排水:なし 空調:冷暖房完備 授乳コーナーおむつ交換台完備
事業開始 2010年10月1日より

○子育てサポートステーション いくたす府中

住 所 〒726-0004 広島県府中市府川町186-1 府中天満屋ソシア内(2F)駐車場完備
連 絡 先 TEL:0847-45-0822 Email:ikutas02@urban.ne.jp
スタッフ数 6名 うち常勤スタッフ(1名 ※保育士) パートスタッフ(5名 ※3名保育士 1名栄養士)
設 備 面積:約100㎡ トイレ給排水:なし 空調:冷暖房完備 授乳コーナー完備
事業開始 2011年5月7日より

☆共通事項 開所時間 10:00～16:30
開所日数 320日
※休館日(第1日曜日、第3日曜日、第3土曜日、年末年始)
研修体制 毎日16:30～16:45(相談内容や運営に関するスタッフミーティング)
年間2回の備後地域の子育て支援施設スタッフとの活動報告と専門研修
全国子育て支援セミナーへの参加 保健師による保健講座への参加 他

社会福祉法人昌和福祉会運営
広島県子育てサポートステーション いくたす 活動経過

| 年月日 | | 活動経過 | 備考 | |
|--------|-----------------|--|---|--|
| 2010年度 | 10月 1日 | 広島県子育てサポートステーションいくたす イトーヨーカドー福山店内(福山市入船町3-1-60)に開設 | 年中無休 | 緊急雇用対策事業として |
| 2011年度 | 5月 7日 | 広島県子育てサポートステーション「いくたす府中」 府中天満屋ソシア店(府中市府川町186-1)に開設 それに伴い イトーヨーカドー内を「いくたす福山」と改名 | 年中無休 | 緊急雇用対策事業として |
| 2012年度 | 4月 1日 | 広島県子育てサポートステーション事業として いくたす福山・いくたす府中の運営開始 | | 広島県子育てサポートステーション 事業として |
| | 5月 9日 | 広島県子育てサポートステーションいくたす福山・府中内で 就労支援活動開始(福山 府中) | 福山: 毎週水曜日個別相談 年6回グループワーク 府中: 年2回グループワーク | 女性の就業相談(広島県産業人材課)として 事業者(株)東京リーガルマインド広島校が県より 受託 |
| | 8月24,25日 | 第1回 備後地域の子育て支援活動従事者の研修会 実施 | 34施設137名参加(2日間延べ) | |
| | 2月1. 2日 | 第2回 備後地域の子育て支援活動従事者の研修会 実施 | 24施設115名参加(2日間延べ) | |
| 2013年度 | 5月 30日 | 広島県子育てサポートステーションいくたす福山・府中内で 就労支援活動開始(福山 府中) | 福山: 年5回グループワーク 府中: 年2回グループワーク | 女性の就業相談(広島県産業人材課)として 事業者(株)東京リーガルマインド広島校が県より 受託 |
| | 9月 7日 | 第3回 備後地域の子育て支援活動従事者の研修会 実施 | 22施設 57名参加 | |
| | 11/20~ 12/18 | 第1回 子育て支援施設実践交流会 実施 | 17施設 34名参加 | 7施設(7日間)施設協力 |
| | 3月 1日 | 第4回 備後地域の子育て支援活動従事者の研修会 実施 | 16施設 33名参加 | |
| 2014年度 | 4月 1日 | いくたす福山 いくたす府中開所日数の変更 | 月3日の休館日の設定 | 第1・3日曜日、第3土曜日 |
| | 6月 25日 | 就労支援活動開始(福山) | 年10回個人相談(福山のみ) | 「わーくわくママサポートコーナー」出張相談 (広島県働く女性応援働く女性応援プロジェクト・チーム)として 事業者Pasonaが県より受託 |
| | 8月 30日 | 第5回 備後地域の子育て支援活動従事者の研修会 | 30施設 78名参加 | |
| | 11/6~21 | 第2回 子育て支援施設実践交流会 実施 | 13施設 52名参加 | 6施設(6日間)施設協力 |
| | 12月 19日 | マザーズワーク内での相談開始に伴い就労支援活動終了(福山) | | 1月より、ハローワーク「マザーズワーク」内 にて相談業務開始(pasona) |
| | 1月 24日 | 第6回 備後地域の子育て支援活動従事者の研修会 | 19施設 42名参加 | |

(2) 広島県子育てサポートステーション事業 内容

柱① 親子のつどうひろば 利用状況

● いくたす福山

| 年度 | 期間 | 利用者総数 | 利用組数 | 1日平均利用者数 | 新規登録組数 | 1日平均登録組数 |
|------|-------------------------|---------|--------|----------|--------|----------|
| 2010 | (2010年10月1日～2011年3月31日) | 13,847 | 5,790 | 78 | 1,641 | 9 |
| 2011 | (2011年4月1日～2012年3月31日) | 34,964 | 15,358 | 97 | 1,927 | 5 |
| 2012 | (2012年4月1日～2013年3月31日) | 36,236 | 15,824 | 100 | 1,696 | 5 |
| 2013 | (2013年4月1日～2014年3月31日) | 37,275 | 16,110 | 105 | 1,475 | 4 |
| 2014 | (2014年4月1日～2015年3月31日) | 34,030 | 14,654 | 106 | 1,227 | 4 |
| 総合計 | | 156,352 | 67,736 | 97 | 7,966 | 5 |

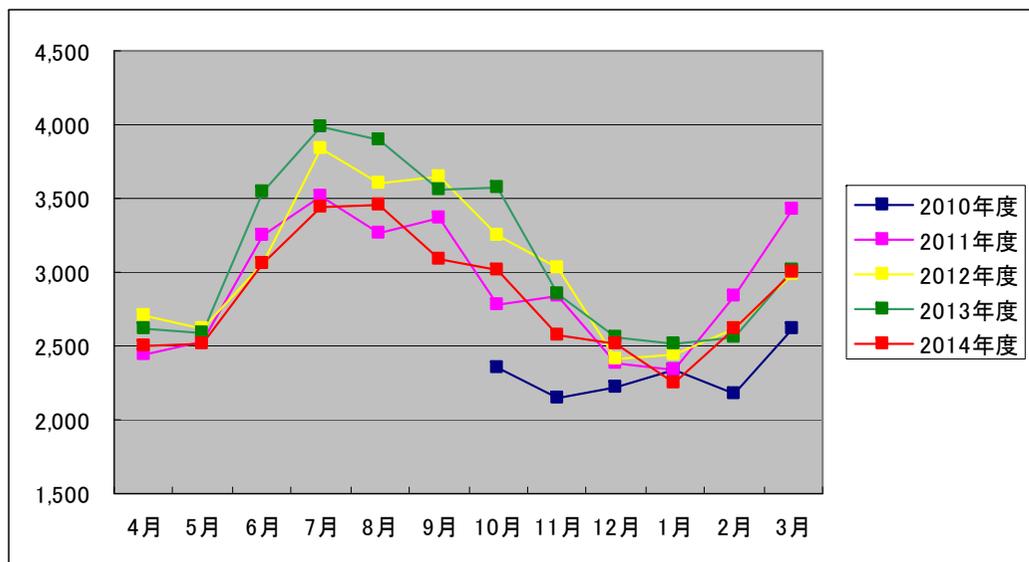
| 曜日 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 |
|----|------|------|------|------|------|
| 日 | 803 | 2373 | 2590 | 2902 | 1641 |
| 月 | 1026 | 2405 | 2585 | 2844 | 2667 |
| 火 | 1030 | 2605 | 2904 | 2938 | 2994 |
| 水 | 1079 | 2800 | 2781 | 2951 | 2765 |
| 木 | 1076 | 2792 | 2917 | 2693 | 2875 |
| 金 | 1101 | 2774 | 2923 | 2977 | 3005 |
| 土 | 905 | 2379 | 2461 | 2434 | 2007 |

2014年度は、土曜日月1日、日曜日月2日が休館日のため、利用人数は少なくなっている。

<傾向>

一日平均の利用数及び新規登録者はほとんど変わらず推移。利用者総数は気候によって左右され、冬季にはいと利用は減少する。今年度から月に3日の休館日を設けており、昨年度と全体数を比較すると減少したが、1日あたりの利用者数は、微増となっている。

今回、初めて利用者を曜日別に集計した。福山は週末金曜日の利用が多い事がわかる。これには福山市内の地域子育て支援センターが週3日程度開所の施設が多いこともあり、それに関連しているのではないかとと思われる。

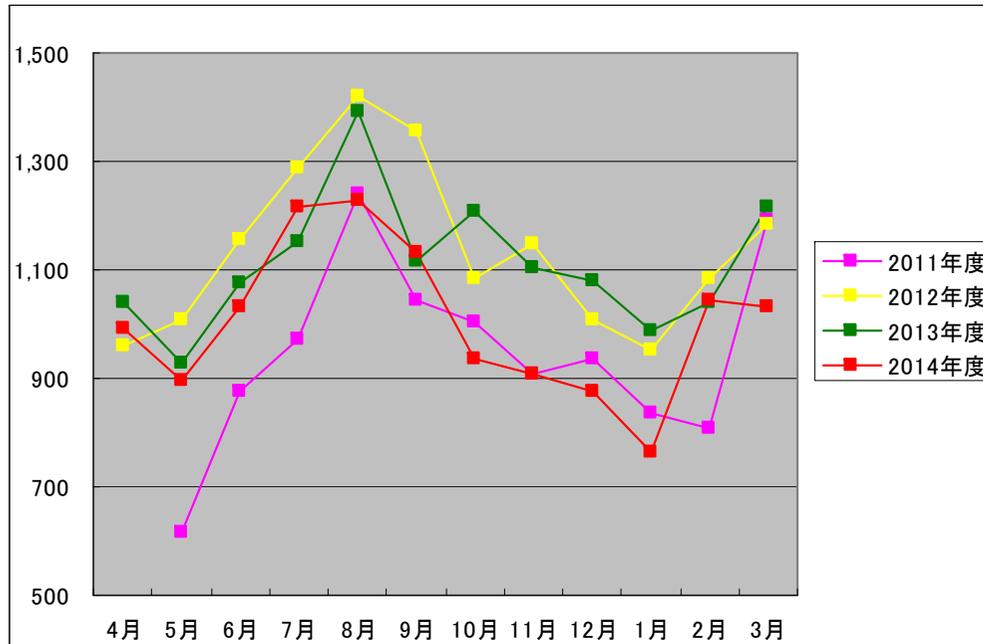


● いくたす府中

| 年度 | 期間 | 利用者総数 | 利用組数 | 1日平均利用者数 | 新規登録組数 | 1日平均登録組数 |
|------|------------------------|--------|--------|----------|--------|----------|
| 2011 | (2011年5月7日～2012年3月31日) | 10,433 | 4,318 | 32 | 620 | 2 |
| 2012 | (2012年4月1日～2013年3月31日) | 13,657 | 5,803 | 38 | 411 | 1 |
| 2013 | (2013年4月1日～2014年3月31日) | 13,291 | 5,427 | 37 | 350 | 1 |
| 2014 | (2014年4月1日～2015年3月31日) | 12,063 | 4,066 | 37 | 259 | 1 |
| 総合計 | | 49,444 | 19,614 | 36 | 1,640 | 1 |

| 曜日 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 |
|----|------|------|------|------|
| 日 | 809 | 1214 | 1133 | 669 |
| 月 | 769 | 1059 | 1058 | 1038 |
| 火 | 976 | 878 | 992 | 1020 |
| 水 | 679 | 925 | 933 | 779 |
| 木 | 769 | 1012 | 1195 | 1086 |
| 金 | 794 | 1104 | 948 | 1000 |
| 土 | 797 | 940 | 908 | 800 |

2014年度は、土曜日月1日、日曜日月2日が休館日のため、利用人数は少なくなっている。



<傾向>

新規登録者は統計上は変わらず、知り合いからの紹介での来店も多い。

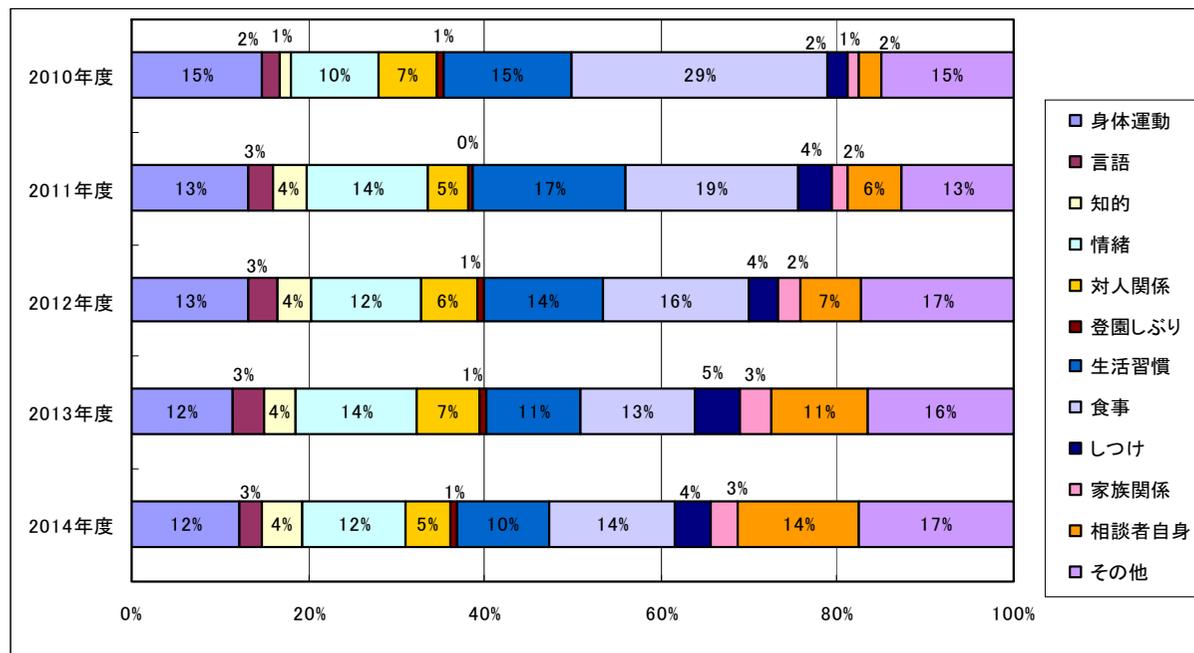
府中も月3日の休館日を設けた事により昨年度より利用者総数の減少が見られる。市内の地域子育て支援センターを利用されている方も多い。

曜日別の利用については、週末が多い状況は福山と同じような傾向が見られるが、平日はほとんどの地域子育て支援センターが毎日開所していることから、利用者は曜日によって利用をすみ分けており、日曜日の利用が多くなっていると考えられる。また、児童館のポムの休館日が毎月月・木第3日曜日となっており、その影響もあると考えられる。

柱② 子育て相談

| いくたす福山 | | | |
|--------|-------|--------|-----|
| 年度 | 期間(月) | 件数 | 月平均 |
| 2010 | 5 | 1,872 | 374 |
| 2011 | 12 | 6,237 | 520 |
| 2012 | 12 | 4,125 | 344 |
| 2013 | 12 | 5,673 | 473 |
| 2014 | 12 | 6,350 | 529 |
| 合計 | 53 | 24,257 | 448 |

| いくたす府中 | | | |
|--------|-------|--------|-----|
| 年度 | 期間(月) | 件数 | 月平均 |
| 2011 | 11 | 3,051 | 277 |
| 2012 | 12 | 3,284 | 274 |
| 2013 | 12 | 5,704 | 475 |
| 2014 | 12 | 3,942 | 329 |
| 合計 | 47 | 15,981 | 339 |



<傾向>

子どもの話題についての相談は、どの項目についても毎年割合はほとんど変わらない。いくたす福山・府中共に利用家庭の2割が0歳の子ども、1歳を合わせると半数以上となるため、なかでも身体運動に関しては、歩行完了までの過程におけるその時々の不安と、通常発達に対する確認をしたい気持ちから相談として多くあがっている。

その他の項目は年々多くなっており、特に病気やけがのことなど、子どもの健康上に対しての不安があがる。しかし、そのほとんどが幼稚園・保育園の入園に向けての話題で、新制度に対しての不安や理解が不十分である事からの不安も多くあがる。相談者自身の話については年々増え続けており、家族関係や自身の健康不安の話が相変わらず多くあがっている。

昨年度から見ると、どの項目も相談割合がほぼ固定化されているようであり、現在の子育て家庭の保護者の悩みの傾向が読み取れる。

<課題>

○相談者自身の相談は、時間が長くなる傾向がある。場合によっては子どもを預かって対応する体制作りが必要。

○入園に向けての相談を充実させる必要あり。幼稚園、保育園、認定こども園、その他小規模保育園など、どれに対しての相談にも応じる事が出来る様、幅広く情報収集をする事が急務であると考えます。

柱③ 一時預かり

| いくたす福山 | | | | | | |
|--------|-------|------|-----|-----|-----|-----|
| 年度 | 期間(月) | 人数 | 月平均 | 1時間 | 2時間 | 3時間 |
| 2010 | 6 | 185 | 31 | 138 | 47 | |
| 2011 | 12 | 345 | 29 | 196 | 149 | |
| 2012 | 12 | 531 | 44 | 254 | 257 | 20 |
| 2013 | 12 | 225 | 19 | 144 | 62 | 19 |
| 2014 | 12 | 282 | 24 | 218 | 57 | 7 |
| 合計 | 54 | 1568 | 29 | 950 | 572 | 46 |

| いくたす府中 | | | | | | |
|--------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 年度 | 期間(月) | 人数 | 月平均 | 1時間 | 2時間 | 3時間 |
| 2011 | 11 | 345 | 31 | 60 | 58 | |
| 2012 | 12 | 171 | 14 | 66 | 58 | |
| 2013 | 12 | 116 | 10 | 46 | 41 | 29 |
| 2014 | 12 | 85 | 7 | 56 | 26 | 3 |
| 合計 | 47 | 490 | 16 | 228 | 183 | 79 |

<傾向>

福山では毎月1回実施していた県の事業である「再就職応援個別相談」に伴った利用者があったが、12月に事業が終了しその後は利用数は若干減少している。一時預かりについては認知が定着しており、週2～3人程度の利用はコンスタントにあり、利用目的が「リフレッシュ」によるものがほとんどである事に変化はない。

府中は、今年に入りリフレッシュ目的の定期利用者があるものの、全体的に利用者数は少ない。年の後半になると、いくたす自体の利用総数が減少すると同時に、感染症の流行などに伴い、預けること自体を控える傾向にある。一方、いつも利用している保育所がインフルエンザ等の流行で預けにくくなることに伴って問い合わせが毎年数件ある。

<課題>

一時預かりは、フロアでの相談業務と並行に行うため、なるべく個別対応をしており、一人ずつ丁寧にみる事が出来る良さもある。体制が整うときは、複数名を同時に預かることもあるが、調整に苦慮することの方が多い。

保育所での一時保育の充実も重要であるが、商業施設内の常設型地域子育て支援センターで一時預かりを実施できることは、利用者の選択肢を広げることにもなり、多様なニーズを一箇所で充足できる利用者支援事業のモデルとしても魅力的ではないかと考える。地域の中で実践しにくい事業を積極的に展開していくことが、サポートステーションとしての活動としていければと考える。

柱④ 子育て講座

<いくたす福山>

○開催回数 12～14回／月

○時間 30～45分

○内容

(予約定期講座)

- ・年齢別(0. 1.2歳以上)
 - (0歳)午前・午後 1回／月 午後のみ・・・1回／月
 - (1歳)午前・午後 1回／月
 - (2歳以上)午前 1回／隔月
- ・誕生日会(午前・午後) 1回／月
- ・発育相談(契約委託保健師)<福山のみ>1回／月
- ・ママのおはなしタイム(親プロ) 1回／月
- ・パパとあそぼう 1回／月(1回のみ親プロ実施)

(予約なし講座)

- ・季節性のある行事(七夕・祭り・クリスマスなど)
- ・つくって遊ぼう(先着30組) 1回／月

(特別講座)

- ・保護者協力講座(ファーストサイン・薬剤師・先輩ママ)
- ・嘱託医協力講座
- ・高齢者交流 ・双子 ・アラフォー

<課題>

実践交流会後のアンケートで、施設間連携活動として案を募ったところ、合同運動会や、子育て講演会、公共施設でのおでかけ保育などが挙げられた。各施設が単独で企画する講座や複数の施設が共同で企画する講座などを、リム福山内の「福山市ものづくり交流館」の積極的な活用も考えていきたい。

<いくたす府中>

○開催回数 12～14回／月

○時間 20～40分

○内容

(予約定期講座)

- ・年齢別(0. 1.2歳以上)
 - (0歳)ねんね・・・1回／月 ハイハイ・・・1回／月
 - (1歳)午前・午後 1回／月
 - (2歳以上)午前 1回／月
- ・誕生日会 月1日
- ・ベビーマッサージ(契約委託講師)<府中のみ> 1回／月
- ・パパとあそぼう 1回／月
- ・ママのおはなしタイム(親プロ) 2回／年

(予約なし講座)

- ・木育ひろば 1回／月
- ・季節性のある行事(祭り・クリスマス・正月など)
- ・つくって遊ぼう(先着20組) 1回／月
- ・ウキウキタイム(歌・おはなし等) 随時

(特別講座)

- ・保護者協力講座(薬剤師・先輩ママ)
- ・嘱託医協力講座

(3) 様々な団体とのコラボレーション(協働)事業

<広島県 関連事業>

●行政とのコラボレーション

①「親の力」を学びあうプログラム(親プロ) <無料>

(広島県教育委員会 広島県立生涯学習センター)

広島県立生涯学習センター作成のプログラム29このうち、子育て家庭に子育て家庭に適した教材で実施。内容によっては子どもの年齢を指定して実施。

| | 内容 | | 参加人数 |
|--------|--------|-------------------|------|
| 2014年度 | 4月 | 〇〇ちゃんがする | 6 |
| | 5月 | 私の時間子どもの時間 | 4 |
| | 6月 | 買って買って(2歳児対象) | 4 |
| | 7月(府中) | 私の時間子どもの時間 | 5 |
| | 8月 | おつきあいて難しい | 4 |
| | 9月 | 出産ははじめの第一歩 | 5 |
| | 10月 | ワイワイキヤーカー | 5 |
| | 11月 | 私の時間子どもの時間 | 6 |
| | 12月 | おつきあいて難しい | 2 |
| | 1月 | 買って買って(2歳児対象) | 8 |
| | 2月 | お父さんの子育てトーク(父親対象) | 2 |
| | 3月(府中) | 買って買って | 4 |

●課題

親同士、話しあう時間が欲しいと意見はあがるものの、講座として扱うと堅苦しく感じる様子も見受けられる。また、同じ教材の繰り返しにより参加者が固定しない分、啓発の方法にもひと工夫が必要と感じる。新教材の「絵本の読み聞かせ」プログラムを加え、来年度は内容と取り組み方を考えていきたい。

②わーくわくママサポートコーナー 出張相談<無料>

(広島県子ども家庭課 働く女性応援プロジェクトチーム)

広島県は、再就職を考える女性に対して積極的に応援するプロジェクトを進めている。

12月までいくたす福山内で県の委託相談員が個別相談に応じていたが、1月28日よりハローワーク福山 マザーズコーナー内にて、広島県の常設相談コーナー開設をしたため、12月を持って相談業務は終了した。

| 実施日 | 参加人数 |
|--------|------|
| 6月25日 | 5 |
| 7月29日 | 6 |
| 8月4日 | 4 |
| 9月4日 | 4 |
| 10月22日 | 3 |
| 11月21日 | 3 |
| 12月19日 | 3 |

●課題

仕事をしたい母親は潜在的に多い。今後は、マザーズコーナー内の相談コーナーを積極的に紹介し、子育てしながらの就労について前向きに考えられるように後押しをしていく。同時に、働き方に合わせた保育に対する相談にきめ細やかに答えていき、保護者が新制度をより具体的に理解出来るようにする。

(4) いくたす子どもおもちゃ館へのとりくみ

① 木育へのとりくみ(いくたす府中)

● これまでの活動

● 木育とは・・

「子どもをはじめとするすべての人びとが、
木とふれあい、木に学び、木と生きる」とりくみ。

● 内容

木育活動については、木工の
待ち府中市として地域色の強い、
どんな年齢でも楽しめるあそびとし
てとらえている。11月より土・日・
祝日に設定してみた。それにより、
年齢の大きな子どもが参加でき
ようになり、小さな子ども達だけ
では出来なかった事や、広がりにく
かった遊び方が、大きい子どもの
遊ぶ様子を見て、小さな子どもが
真似をするという学ぶ姿が見られ
るようになってきた。

また、土日・祝日に日程を組むこ
とで、父親の参加が増えてきた。
木のおもちゃを介して子どもとの関
わりも深まっている。

繰り返す遊ぶことで、保護者も遊
び方を工夫をするようになってきた

親自身が楽しいと、子ども達と自
然に関わりを持ち、相互の気持ち
が寄り添う結果を生んでいる。



| 2012年 年度 | 2012年度「木育ひろば」実施記録 | | | | | |
|-------------|-------------------|-------------------------|-----------------|-------|-----|-----|
| | 日時 | 場所 | 参加者総数 | 大人 | 子ども | |
| | 10月24日 | いくたす府中 | 34 | 17 | 17 | |
| | 10月27日 | ウッドアリーナ(産業メッセ) | 72 | 31 | 41 | |
| | 11月30日 | いくたす府中 | 27 | 12 | 15 | |
| | 12月9日 | 府中ノアンテナ | 40 | 15 | 25 | |
| | 1月21日 | いくたす府中 | 42 | 19 | 23 | |
| | 2月22日 | いくたす府中 | 42 | 21 | 21 | |
| | 3月21日 | いくたす府中 | 36 | 17 | 19 | |
| 2013年 年度 | 11月 | 「木育キャラバン(移動型玩具美術館)」活動協力 | | | | |
| | | 2013年度「木育ひろば」実施記録 | | | | |
| | | 日時 | 場所 | 参加者総数 | 大人 | 子ども |
| | | 4月22日 | いくたす府中 | 40 | 18 | 22 |
| | | 5月24日 | いくたす府中 | 29 | 15 | 14 |
| | | 5月25日 | ウッドアリーナ(学びフェスタ) | 100 | | |
| | | 5月26日 | ウッドアリーナ(学びフェスタ) | 100 | | |
| | | 6月18日 | いくたす府中 | 35 | 18 | 17 |
| | | 7月23日 | いくたす府中 | 47 | 22 | 25 |
| | | 8月19日 | いくたす府中 | 35 | 16 | 19 |
| | | 10月16日 | いくたす府中 | 45 | 25 | 20 |
| | | 11月22日 | いくたす府中 | 48 | 26 | 22 |
| | | 1月10日 | いくたす府中 | 51 | 27 | 24 |
| | | 2月13日 | いくたす府中 | 60 | 29 | 31 |
| | 3月8日 | いくたす府中 | 44 | 18 | 26 | |
| 2014年 年度 | 4月 | NPO法人府中ノアンテナより積み木を贈与 | | | | |
| | | 2014年度「木育ひろば」実施記録 | | | | |
| | | 日時 | 場所 | 参加者総数 | 大人 | 子ども |
| | | 4月22日 | いくたす府中 | 28 | 14 | 12 |
| | | 5月24日 | いくたす府中 | 35 | 15 | 20 |
| | | 6月28日 | いくたす府中 | 49 | 20 | 29 |
| | | 7月25日 | いくたす府中 | 60 | 29 | 31 |
| | | 8月12日 | いくたす府中 | 52 | 25 | 27 |
| | | 9月13日 | いくたす府中 | 56 | 27 | 29 |
| | | 10月24日 | いくたす府中 | 21 | 10 | 11 |
| | | 11月22日 | いくたす府中 | 41 | 18 | 23 |
| | | 12月13日 | いくたす府中 | 37 | 18 | 19 |
| | | 1月12日 | いくたす府中 | 47 | 22 | 25 |
| | | 2月14日 | いくたす府中 | 53 | 27 | 26 |
| | 3月14日 | いくたす府中 | 33 | 16 | 17 | |

②玩具の貸出

<目的>

おもちゃを使って家族間であそぶなかで、家族のあたたかいふれあいの時間をもつことによりコミュニケーションのきっかけづくりを援助する。
それぞれのおもちゃの対象年齢を知り、子どもの発育発達に対し専門的に助言する。

<利用の決まり>

- ◆貸出期間：1週間以内
- ◆貸出個数：1家族 1種類まで
- ◆貸出料金：無料

<貸出玩具>

マグフォーマー、木のパズル、手作り玩具 など7種、12セット

● 利用状況 (2014/4/1～2015/3/31)

◆貸出総数：266

| | 貸し出し総数 |
|-----|--------|
| 4月 | 20 |
| 5月 | 12 |
| 6月 | 19 |
| 7月 | 20 |
| 8月 | 27 |
| 9月 | 26 |
| 10月 | 16 |
| 11月 | 24 |
| 12月 | 23 |
| 1月 | 20 |
| 2月 | 29 |
| 3月 | 30 |

| 曜日 | 貸し出し総数 |
|----|--------|
| 日 | 45 |
| 月 | 45 |
| 火 | 37 |
| 水 | 37 |
| 木 | 30 |
| 金 | 40 |
| 土 | 32 |

<傾向>

月別と曜日別で利用傾向を見てみた。7、8月は幼稚園等が夏休みに入り、家庭で下の子と一緒に遊ぶ為に貸し出しを利用する人が多かった。また、日・月・金曜日が多いのは、1週間の過ごし方を示していると考えられる。



<コロコロコースター>



<マグフォーマー大30p>



<マグフォーマー小96p>



<木のパズル ふくろう>



<木のパズル 宇宙人>



<ホットドッグセット>



<アルファベット釣り>

<課題>

いくたす福山の利用者にはいわゆる「転勤族」も多いので、様々な地域の子育て支援の状況を聞く事が出来る。その中で、おもちゃの貸し出しについては他の地方での取り組みとして聞かれない。転勤族の家庭にとっては、できるだけ荷物を増やさず、その時期しか必要でない物は廃棄して転居される実態がある。その点からも、子どもの年齢によって好みや知的発達にあったおもちゃが借りられる事はとても嬉しいことであると声があがる。

また、いくたすに限らず、支援センターや保育所では保護者から廃棄するにはもったいないので使って欲しいと言われる玩具も多い。衛生管理や安全管理方法、置き場所など様々な課題も多く保護者の善意を活かすことが難しい現状もあるが、その方法を探りたい。

(5) 医療機関との連携

広島県子育てサポートステーションを運営するにあたって、いくたすに立地的に近い場所で開業されている小児科または内科胃腸科の医師に嘱託医として委託している。子どもの緊急時の対応に対しての助言および保護者やスタッフを対象とした医療面でのサポートをお願いしている。その活動の一環として、年に一回いくたす内で「お医者さんの話」として講座を開いている。

2014年度は、以下の通り講座を実施した。

<いくたす福山>

テーマ

「子どもの便秘と注意したい下痢」

講師:

細木小児科院長

細木 宣男医師

<いくたす府中>

テーマ

「下痢、便秘、嘔吐 お腹の不調について」

講師:

河村内科胃腸科院長

河村 秀康医師

実施日:2015年 3月26日

参加者数:

保護者 9名

こども 11名



(課題)

いくたす福山、府中それぞれの嘱託医として、緊急時対応の助言をいただけるよう業務委託しているが、地域の現状や子育て支援についての意見、子育て支援施設としての役割などについても医師の立場から助言をいただける機会を持つよう、働きかけたい。また、子育て講座の内容については、日々の相談からタイムリーな保護者の悩みを取り上げていくようにしたい。

実施日:2015年3月24日

参加者数:

保護者 7名

こども 11名



(6)地域の様々な子育て支援に携わるグループとの交流

2015年度から始まる「子ども・子育て支援新制度」のスタートに向け、今まで交流のあった、地域で子育て世代を対象に支援活動を実践されるグループの方との交流を積極的にもつ事により、広島県子育てサポートステーションいくたすの活動を理解していただき、より幅広い支援の方法を探る。

<豆まきごっこ>

交流団体:

ボランティアグループ

花ネットワークBINGO (4名)

(代表:田辺 敏さん)

いくたす福山の子育て講座「豆まきごっこ」に参加していただいた。その中で、昔の豆まきの様子を話していただくと共に、講座後に子育て中の保護者の方の中に入っただき、子育ての悩みを聞いたり、昔の遊びや手遊びを子ども達と一緒に楽しんでいただいた。

子育て支援施設の現状を知っていただくいい機会となり、今後も支援に携わりたいと言われた。



<子育て支援情報提供>

交流団体:

NPO法人

子どもステーション

(代表:奥野 しのぶさん)

社会福祉法人昌和福祉会のホームページといくたす通信で子育て支援情報を提供する傍ら、地域のNPO法人の協力を得て、いくたす福山／いくたす府中それぞれの子育て講座の情報を、NPO法人発行の情報誌に掲載していただいた。



(課題)

2015年度4月からスタートする「子ども・子育て支援新制度」における新事業である『利用者支援』では、さまざまな子育てに関わる団体との交流を持ち、その中で「繋げる」事がとても重要な役割となってくる。地域子育て支援拠点事業施設はもとより、地域で活躍される様々な団体の方と交流を持つ事で、子育ての現状を理解していただく事が必要と考える。子育てに対する理解者をより多く持つ事で、支援者自身が繋げる人や機関を限定したり決めつけたりせず、様々な地域の方との関わりを通して利用者に活動を伝える事で、その家庭にあった人や場所を選ぶ事ができ、繋げられるようにしたい。

(7) 利用者アンケートの集計から見えること

アンケート実施期間: 2014年12月～

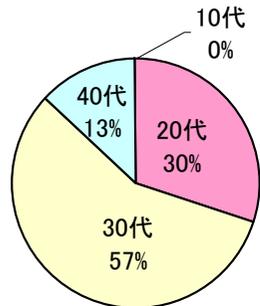
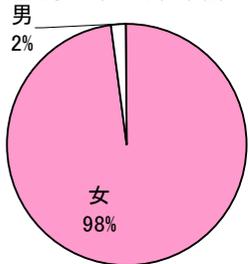
対象者: **いくたす福山**利用者 100名 **いくたす府中**利用者 50名

<毎回共通の基本項目>

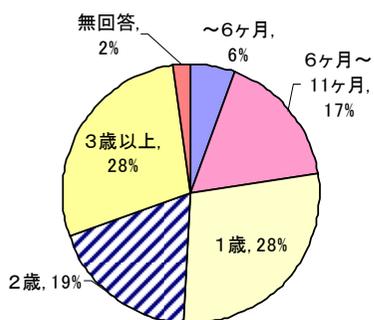
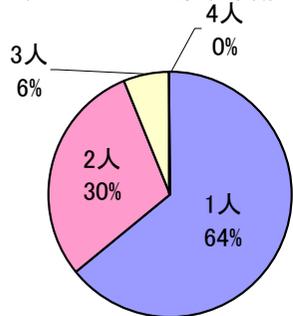
①回答者について

●いくたす福山

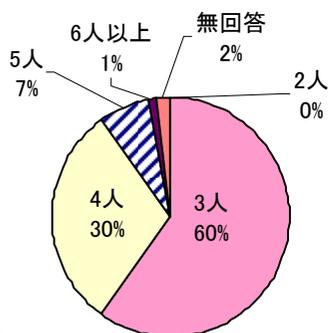
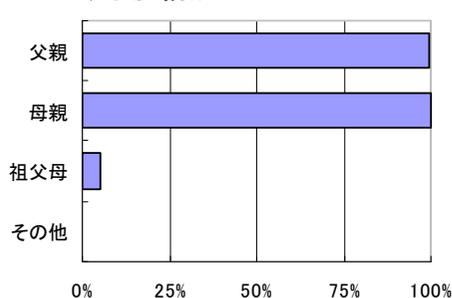
Q、自身の性別、年齢



Q、子どもの人数、年齢

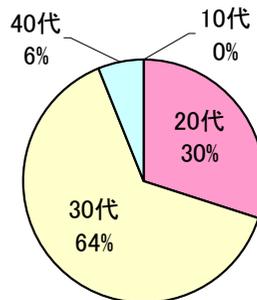
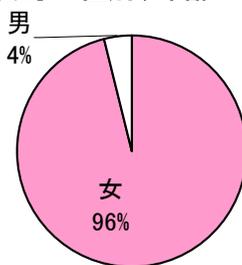


Q、家族構成

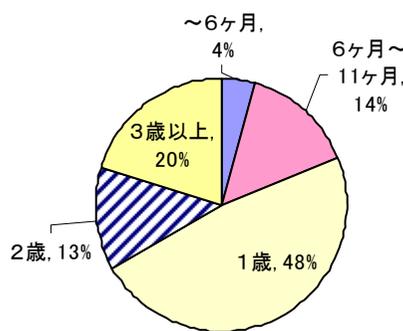
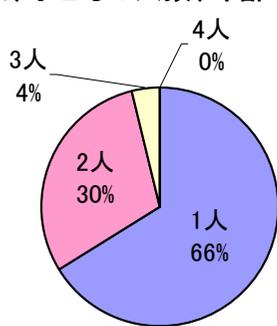


●いくたす府中

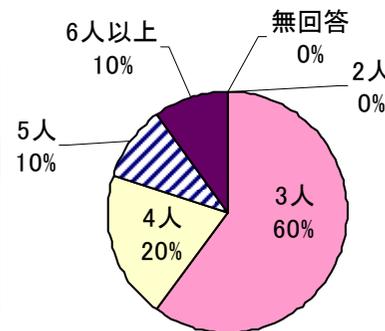
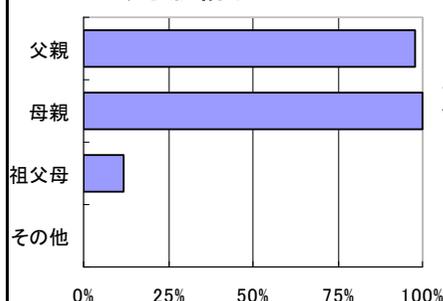
Q、自身の性別、年齢



Q、子どもの人数、年齢



Q、家族構成



<分析>

福山・府中共にアンケートに答えていただいた対象の保護者は、30代が6割、続いて20代。子どもの人数は1人が6割強。子どもの年齢は3未が7割強。

利用については福山は0.1歳6割3歳以上は2割弱。府中は、0.1歳7割、3歳以上は1割6分である。どちらも1歳の子どもの割合が一番高くなっている。

府中の同居率は、全国平均13%より少し高め16%。福山の4%を見ると地域性に違いがある。

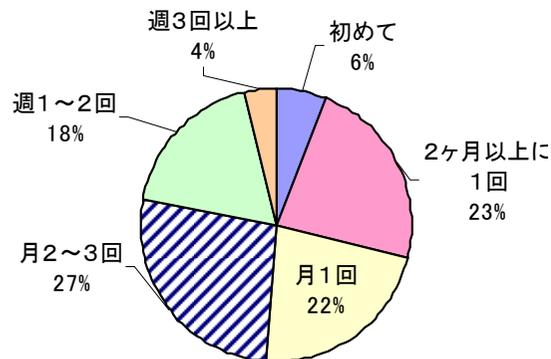
1人目の子育て家庭が多いなか3人以上になると幼稚園等に入園して仕事を持ち始める母親も少なくない。その為、1人目2人目の子育て家庭が多いのではないかと推察される。

いくたすは土日も開所しているため、土日には、父親だけで利用する方も多くなっている。祖父母の利用者も多い。そういった方が、雰囲気的に利用しにくい状況にないか、常に利用者の声を参考に環境を整えていきたい。

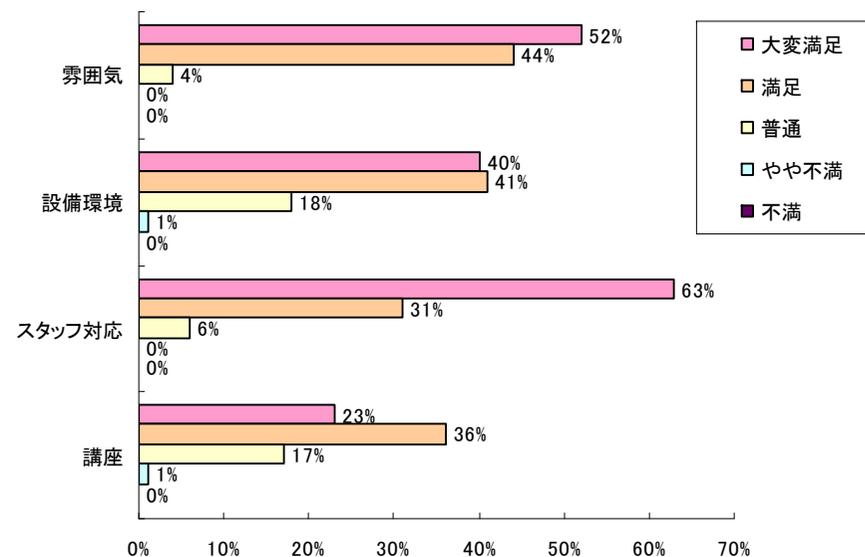
②利用状況

●いくたす福山

Q、いくたすの利用頻度



Q、いくたすを利用したの感想



<分析>

年末にかけてアンケートを取ったので、普段利用している方以外も多少含まれていると思われる。

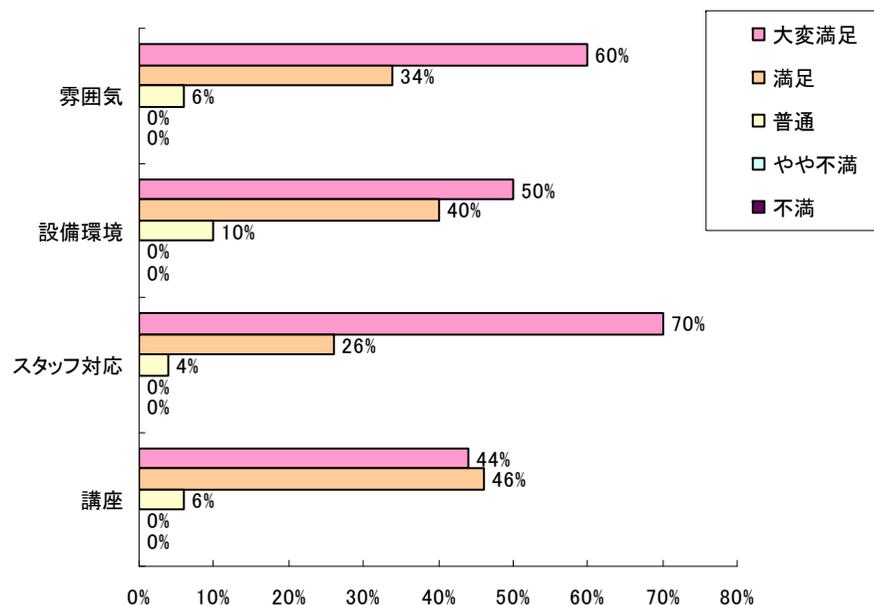
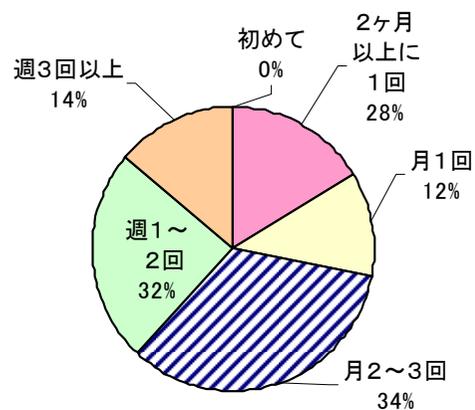
福山、府中共に月2~3回の利用の割合が一番多いが、府中は週3回以上の割合が高く、週1~2回の割合を加えても、きわめてリピート率が高い事がわかる。

雰囲気、スタッフ対応、設備環境共に9割以上の方が満足、大変満足と答えていただいている。

子育て講座に関しては、講座に参加する事なく単に遊びに来られる方も多く、福山は参加していない方が23%あった。予約の面倒さや予約が取れなかった経験から参加しなくなったとも考えられる。一方、もともと子育て講座への参加が目的になれば参加はする事はなく、自由に遊ぶことを目的としている人が多いのかも知れない。

府中は、全体的に利用者が少なく、当初誰でも参加できる、予約をしなくても良い講座を多く組み込んでいたため、講座参加を楽しみにする人が多い。しかし、参加人数が読めないため予想外に多く利用があった時の子どもの安全面を考えると、講座内容や利用方法を再考する時期に来ていると思われる。

●いくたす府中

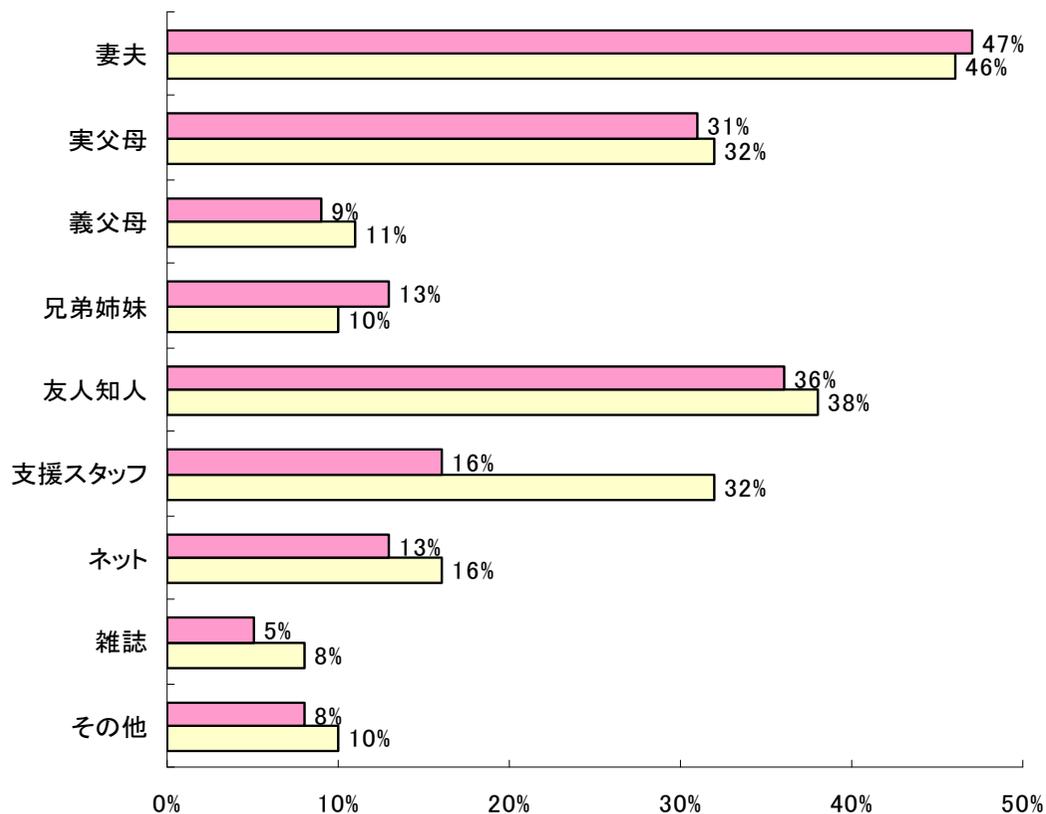


③悩み

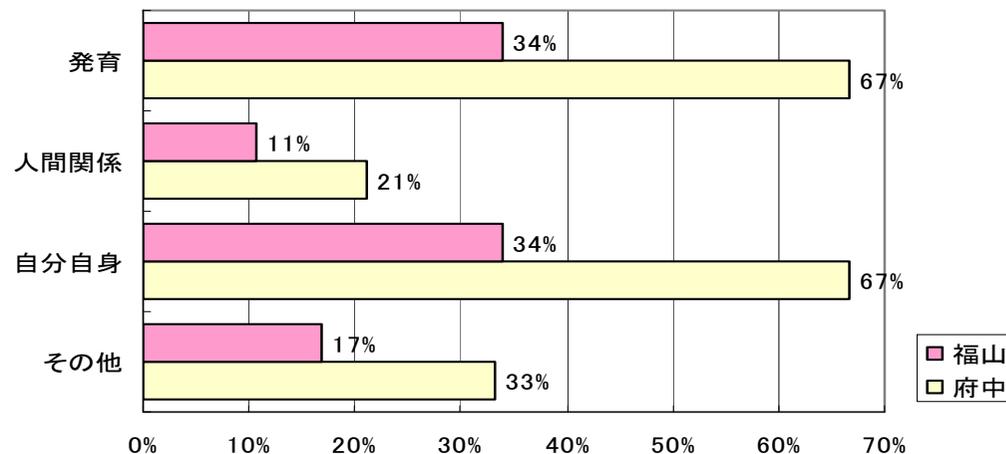
Q、誰かに相談したい悩みの有無について

| | 福山 | 府中 |
|-----|-----|-----|
| ある | 65% | 66% |
| ない | 34% | 34% |
| 無回答 | 1% | 0% |

Q、誰に相談するか（複数回答）



Q、どのような悩みか（複数回答）



<分析>

子育てにおいて相談したい悩みを持つ人は6割以上である。アンケートを取り始めて、悩みがある人の割合が増えている。これは単に悩みが増えたのではなく、相談したいと思っている人が増えたのではないかと考えられる。

悩みの内容については子どもの発育についての割合が高くこれは、子育て相談の現状を見ても明らかである。また、自分自身の悩みについても、子どものしつけについての割合が、4割と一番高く、この事からも自分自身よりも子どもの事で常に悩んでいる事がうかがえる。

府中は、同居率に比例して家族との関係に悩む人が福山よりも多い。福山では、家族と同等に近隣や知人との関係に悩む人がいるが、府中はそれに関しては全く数字にあらなかった。

相談相手では、やはり夫・妻の割合が高く、夫婦で理解協力しながら生活している事が伺える。前回と同様に、子育て支援施設のスタッフに相談する人も多く、相談のスキルアップが必要であり、今後も研修内容としてあげていきたいところである。

悩みは、見える悩み見えない悩み、解決できる悩み解決できない悩み、相談できる悩み相談出来ない悩みなど、複雑多岐に渡り、もっと細かい調査を重ねる必要がある。私たちの活動する大きな理由の一つがこの悩みの共有にあるので力を入れていきたい。

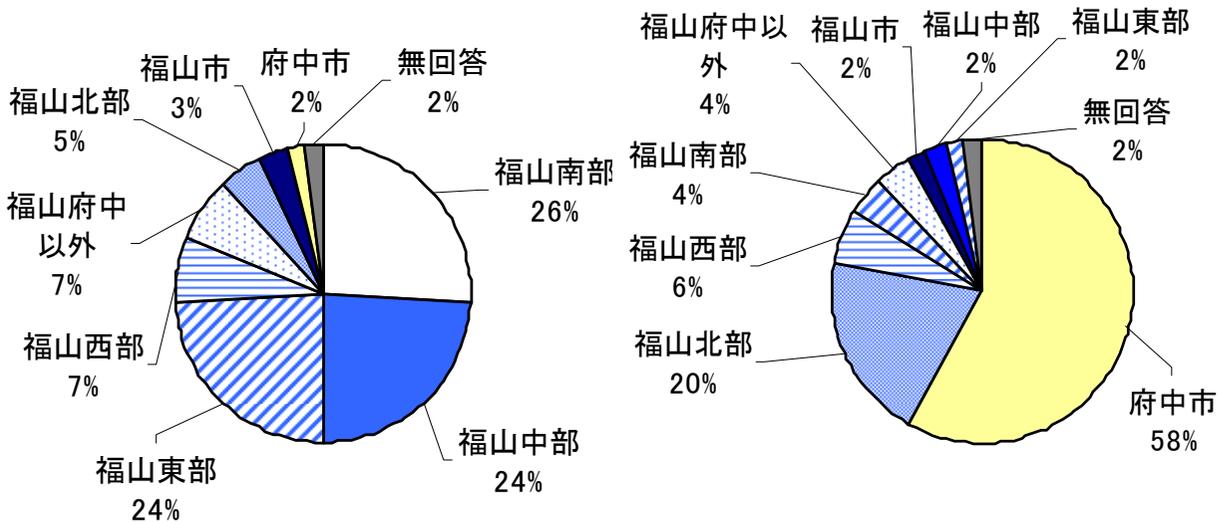
<今回のみの特別項目>

④地域子育て支援センターについて

<利用者 居住地>

●いくたす福山

●いくたす府中



<分析>

いくたす福山・府中それぞれについて居住地を見てみた。

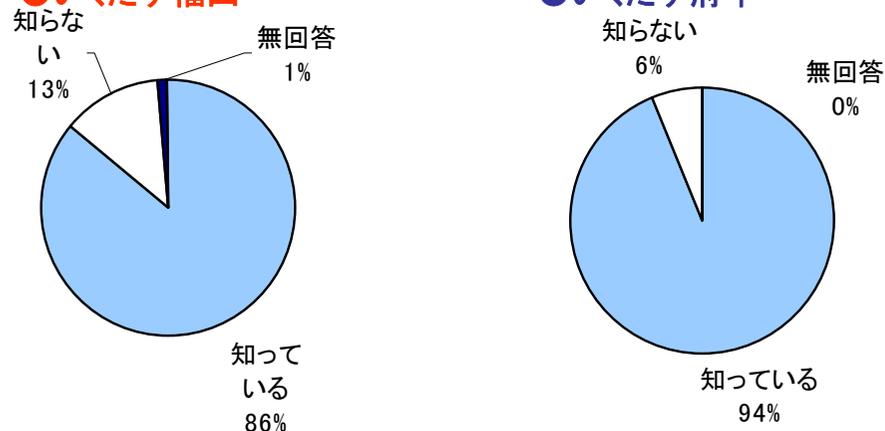
福山は、イトーヨーカドーが福山市のほぼ中心部に位置するので、多方面からの利用が見られる。子どもを連れての移動から自家用車を利用するが、できるだけ自宅から近くの施設を選ぶ傾向もあり立地に左右されるかもしれない。

府中は、半数以上が府中市利用である。いくたす福山に福山市北部の方の利用が少ないが、府中は福山市北部の方の利用が2割を占める。生活圈として府中と福山北部は共通なエリアであり、自治体の壁にとらわれず、地域(エリア内)の子育て環境の把握が必要ではないだろうか。また、少数ではあるが、尾道や三原、福山市西部の方も利用圏内にもなっている。

Q、「地域子育て支援センター」を知っていますか。

●いくたす福山

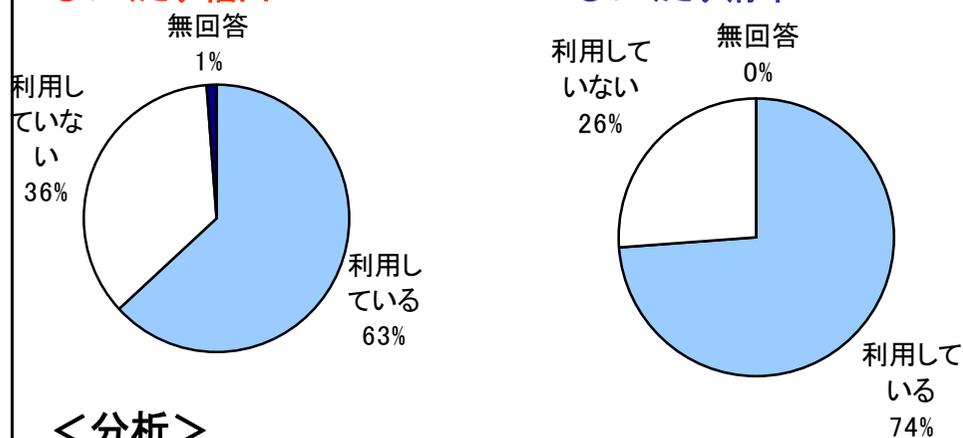
●いくたす府中



Q、地域子育て支援センターを利用していますか

●いくたす福山

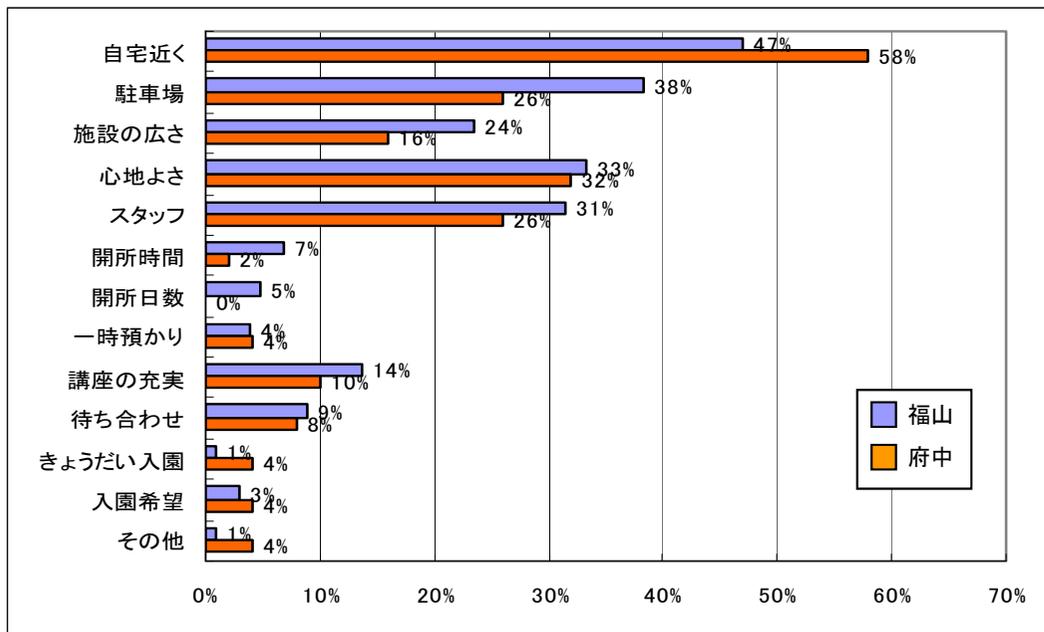
●いくたす府中



<分析>

地域子育て支援センターについての認知は高く、9割程度の方が知っている。利用については福山で6割強、府中で7割強である。知っているけれど利用していない人の理由について今後聞き取り調査して、利用の促進につながるような効果的な情報提供をする事や、利用しにくいと感じる要因があるのなら、それを整理することが、新年度からの利用者支援事業において子育て支援センターの紹介をする上で必要なことではないか。

Q、支援センターを利用する理由（複数回答）

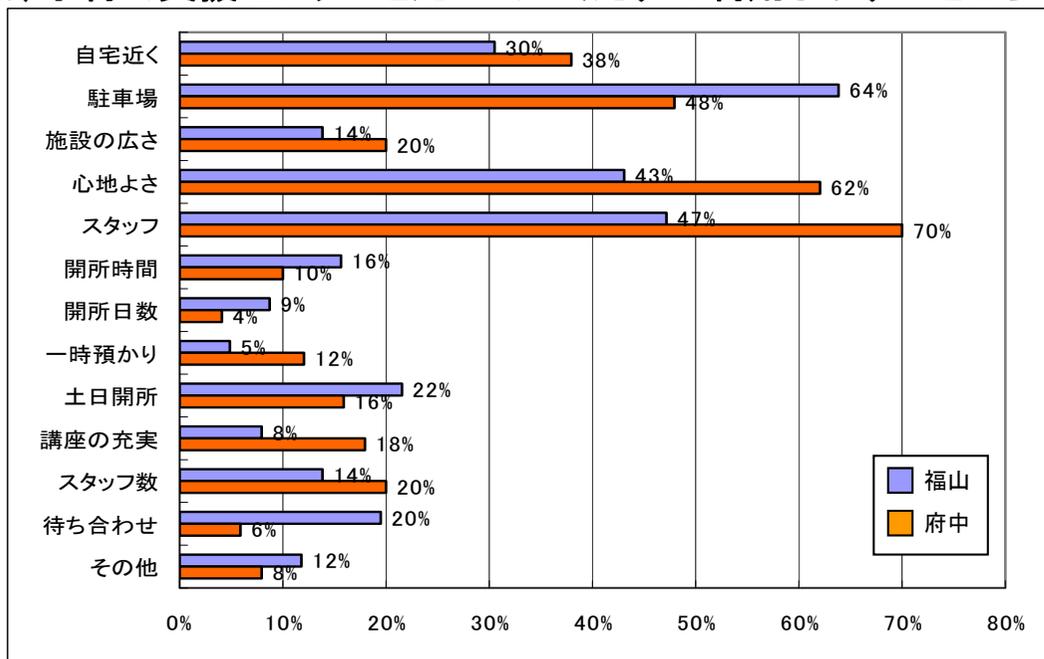


<分析>

福山、府中それぞれの利用者は、どちらも9割以上の方が車を使って移動をしている。買い物や送迎、通勤などあらゆる場面で車は生活必需品となっており、利用においても、主要道路からのアクセスのしやすさや駐車場の完備は、地域子育て支援センターの利用に欠かせないものとなっている。その事からも駐車場について利用しやすさが上位の理由にあがっている。しかし、現在多くが保育所併設の地域子育て支援センターにて、10組～15組の利用者全員の車を同時に駐車できる広い土地を準備する事は難しい現状がある。

自宅から近い場所を最も重要と考えて利用施設を選び、次いで駐車場、次いで施設の心地よさやスタッフをあげている。子育てをするうえで、人間関係は重要であり、特に回数を重ねて利用することが望まれる地域子育て支援センターでは、近場であると同時に、リラックスして安心して過ごせること、スタッフとコミュニケーションがゆっくりとれることなどが重要である。

Q、子育て支援センターと比べていくたすの利用しやすいところ

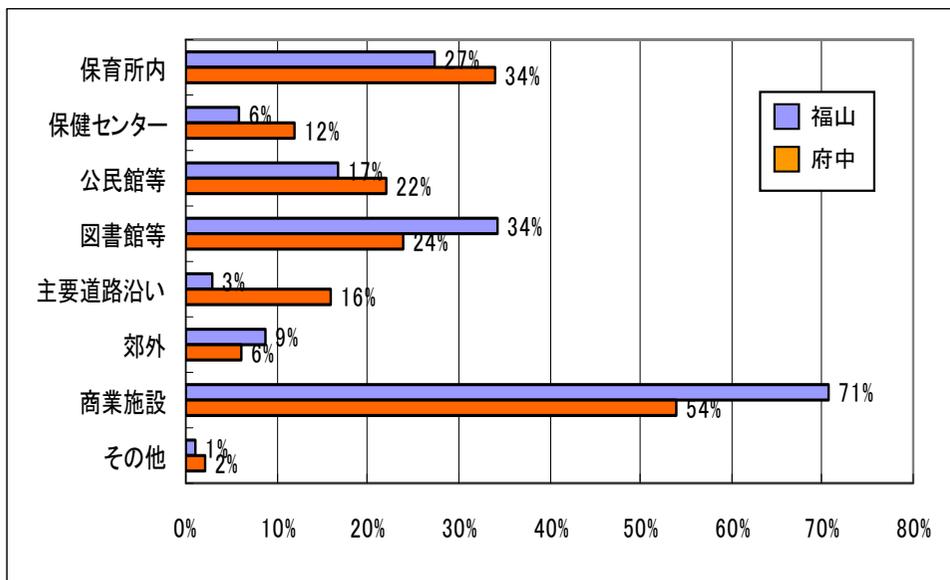


地域子育て支援センターといくたすとの利用に対しての比較では、自宅近くであることや、駐車場の使いやすさという点が上位にあり、施設の心地よさとスタッフ対応については同じような傾向が見られる。駐車場はいずれも商業施設内であることを最大の強みとして利用者が感じている。スタッフについては、対応だけでなく、スタッフ数が多いことも影響していると思われる。

いくたすは2014年度から月3日の土日の休館日を設けたが、2割の方が土日開所を望んでおり、子育てに休日がない事を物語る。いくたすは、開所日数が多く、時間も長いことなどからスタッフを多く配置しなければならないが、より多くのスタッフが声をかける事ができ、安心感を得ていると思われる。

一時保育を希望する保護者も一定数おり、保育所併設型の地域子育て支援センターの一時保育利用との相関性や利便性にも意味が大きいと思われる。

Q、子育て支援施設に望む立地条件



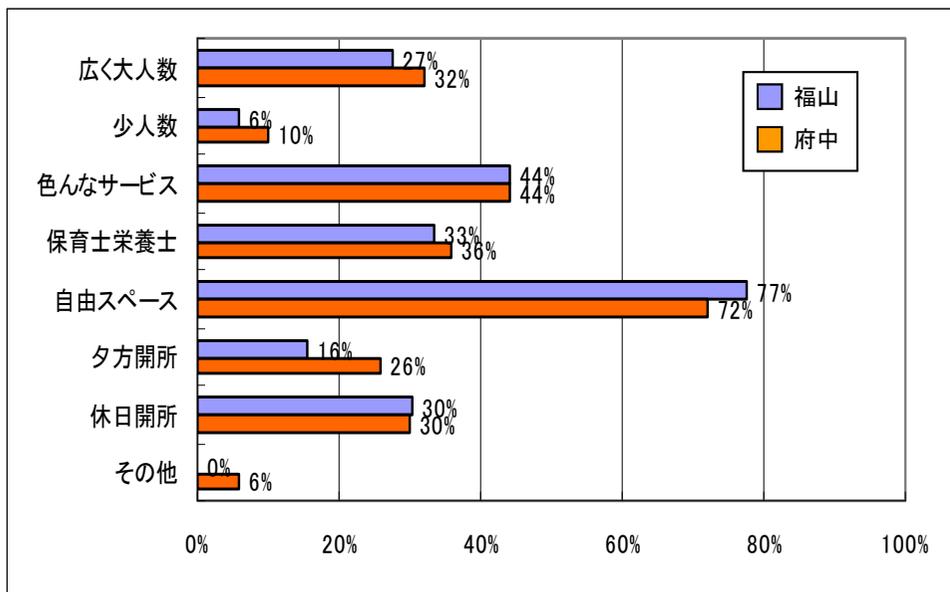
<分析>

施設を利用するにあたって、立地と環境について望む事を尋ねた。

「立地」については、商業施設内に次いで図書館内や公民館内などの公共施設の人が集まりやすい場所を望んでいる。保育所内を希望する割合も高いことから、安心して相談できる場所として信頼が集まっていると思われる。

商業施設内については、利用に男女差や年齢差を問わない、家族のだれでもがいつでも利用しやすいことから希望が高いと思われる。利用者に対して、特に最初の利用を決定付ける要因で、雰囲気的に敷居が低いことの意味がある。また、近年のひととの関わり方にいきなり濃密なものを求めず、「個」として軽く、薄い感覚で利用を始めたいという意味もあるのかもしれない。

Q、子育て支援施設に望む環境条件

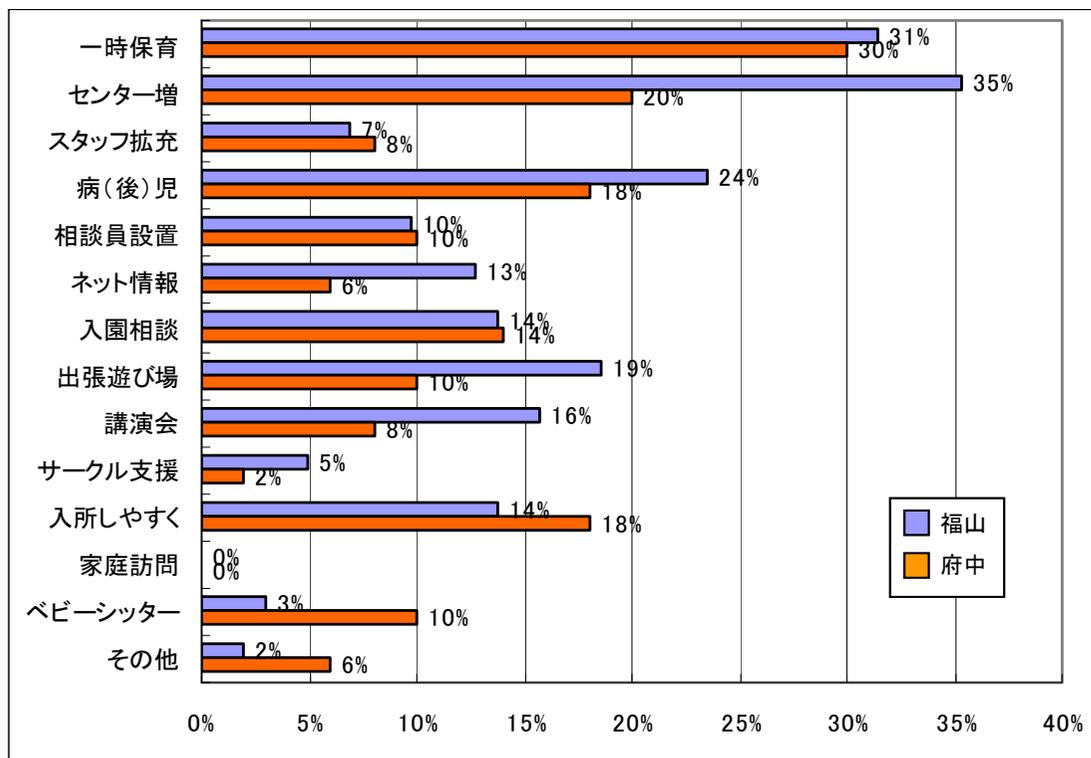


また、「環境」については自由スペースを多くの方が望んでおり、いろいろなサービスや専門家の常駐を望んでいる。

自由なスペースは、市内に自由に利用できる屋内の無料の遊び場が少ないことや、積極的なサービスより、まずは親子だけで自由に楽しめる空間を望む声の現れだと思われる。その上で、スタッフが常駐していて気軽に相談できる場を求めているのではないかと。こういった自由な空間があり、望めば専門家との相談もあることが、利用者自らに選択できる環境をつくり、「多様なサービスのある支援センター」ということになるのではないかと。

今後は、求めるサービスの詳細についてアンケートをとり、分析する事が必要であると思う。保護者の希望を全て実現する事はむずかしいと思うが、こちらで全ての内容を決定し、押し付ける形ではなく、求める環境の中に、「自己選択・自己決定」の要素を入れることも重要である。

Q、子育て支援施設に望む支援内容



<分析>

一時保育についても多くの方が望んでいる。センターが保育所併設型のところが多いので、一時保育は保育所の保育室で実施する事が多いが、子どもにとっても親にとっても、いつもと違う環境の中での預かりに対して、慣れた場所を望む声も少なからずあがっている。利用者支援事業について深く考え、先を見据えた環境が望まれる。

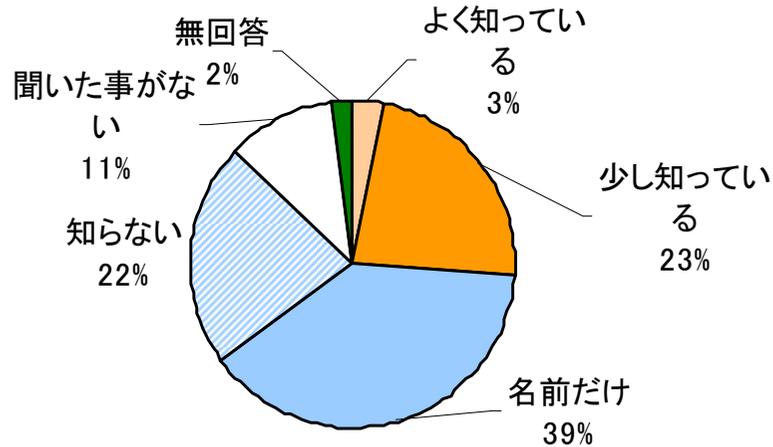
また、病(後)児保育についても2割近い人が希望している。子どもの事を考え、仕事を休む事は企業側もやむを得ないと考える所が多いなか、実際には出来にくい時もあり、やむを得ない場合に預かってもらえる緊急対応施設を希望しているものとする。

入園相談や入所しやすくなど、入園に関して望む人も2割弱ある。入園に際し、様々な情報を知り、より子どもに合った施設を選びたい保護者の気持ちを理解した上で、希望に近い施設を共に考えてもらえる支援者が望まれていると思う。

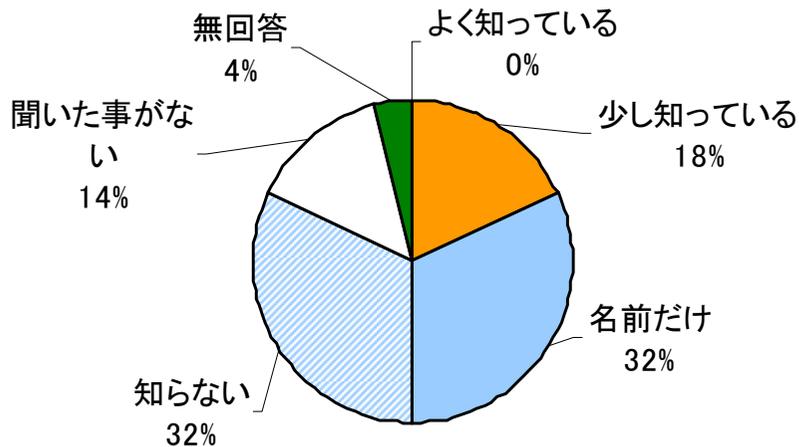
センターの数をもっと増やして欲しいという希望が多いのは、身近な場所にまだ足りないということなのか、それとも利用機会が少ないということなのかは分からないが、センターに関して多くの利用者が今以上に求めるものがあることを意味するのではないかと考える。

⑤子ども・子育て支援新制度について

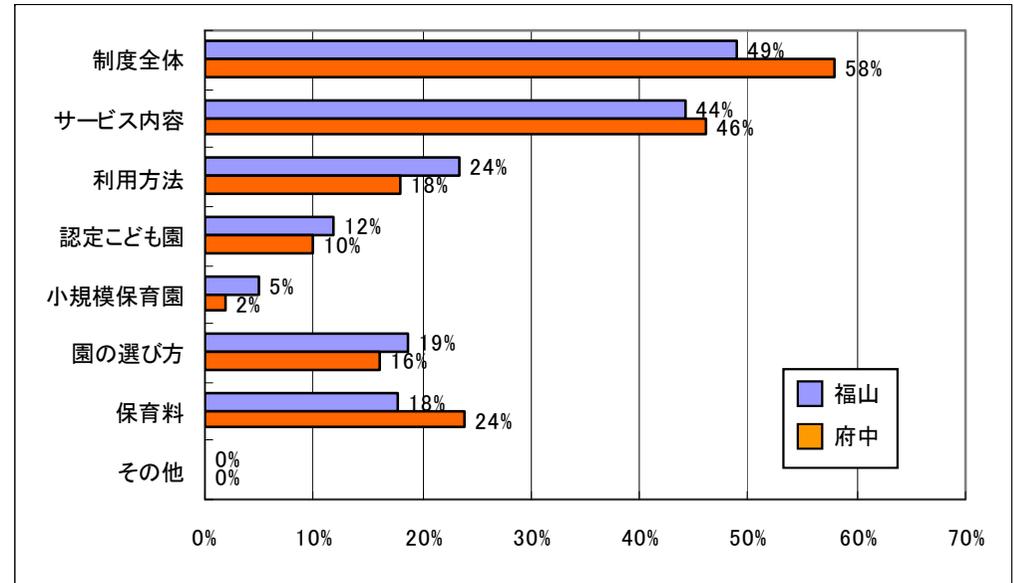
●いくたす福山



●いくたす府中



Q、新制度について知りたい内容



<分析>

子ども・子育て支援新制度に対しては、まだ十分に認知されていない。広報不足のこともあるが、自分にどう関係するか直ちに実感のない感じである。また、新制度と言っても既存のサービスが多い上、内容が多岐に渡ることも理解が深まらない原因かもしれない。知らない人は福山で2割、府中で3割である。「名前だけ知っている」を含めると7割以上となる。興味や関心は高いので、地域子育て支援センターとして、制度について、くりかえし保護者に伝えていく必要があると感じる。

新制度は、保育所や幼稚園の入所に関する制度ととらえている保護者も多い。保護者にとって、どの施設を利用する事がよいかなど、その選択にあたって適宜適切な情報を伝える大切な役割を、支援者が担っている事を理解しなければならない。

保育所だけでなく、幼稚園、認定こども園に加え、小規模保育園など幅広く情報を収集して理解し、個々に合った施設の選び方をコーディネートできる力を支援者自身がつけていくことが今後の課題と考える。また、その伝え方も課題である。

(8) 子育て支援活動施設見学・実践交流会

備後地域の子育て支援活動従事者の研修会を5回実施し、様々な角度から支援を見つめるためには、交流の機会が欲しいと常に多くの意見として上がっています。

昨年度初めての施設見学及び実践交流会を持つ事ができ、他施設の支援のやり方や保護者に対しての対応、地域子育て支援センターにおける掲示板の使い方、おもちゃの配置や種類、片付け方などの環境についても非常に参考になったと感想をいただきました。

今年度も2回目の実践交流会について提案させていただいたところ、いくたす福山を含め6施設の協力を得る事ができました。このたび施設見学へのご協力に感謝すると共に、多くの支援者がこの見学・交流会に参加する事が出来た事は、施設長様のご理解のもとで実施できたことに感謝し、ここにご報告させていただきます。

<実践交流会の目的>

- ①他の支援活動の場を第三者的な視点で見ることにより、日頃の活動を客観視する。
- ②様々な親子関係のケースを学ぶ。
- ③施設の情報共有し、情報発信の仕方を学ぶ。
- ④新しい取り組みや企画を学び、自らの施設の実践につなげる。

<実践交流会日程及び参加状況>

| 実施施設 | 見学日 | 時間 | 支援内容 | 参加人数 |
|---------|----------|-------------|-------------|------|
| 鞆こども園 | 11/6(木) | 10:00~12:00 | トランポリン遊び | 9 |
| いくたす福山 | 11/12(水) | 10:30~12:30 | サーキット(1歳) | 13 |
| 千田保育所 | 11/13(木) | 10:00~12:00 | クラス交流(2歳児) | 7 |
| 竹尋誠和保育園 | 11/18(火) | 10:00~12:00 | 栄養士のお話 | 6 |
| 駅家東保育所 | 11/20(木) | 10:00~12:00 | 身体測定 | 8 |
| 千田西保育所 | 11/21(金) | 10:00~12:00 | サーキット(1~2歳) | 9 |

参加延べ人数 52

広島県子育てサポートステーション いくたす
子育て支援施設見学 実践交流会(2014.11.6~21)

1) 地域子育て支援センター ともっこ☆ひろば 2014.11.6(木)

①実践活動見学内容 (10:00~11:00)

トランポリン遊び(赤ちゃん「ハイハイして遊ぼう」)

目的:親子で身体を動かす楽しさを味わう。

対象:0歳以上 未就園児 と保護者

(参加人数 保護者7名 子ども9名)

<場 所> 福山市鞆町鞆 274

<実施状況> <ともっこ☆ひろば> 月・水・木 週3日

<笑いの広場>

鞆の津ふれあいサロンにて月1回
支援の子どもと地域の老人との交流

<特 徴> 無理のないよう、子どものしたい遊びを園全体で受け入れ見守る
地域の住民との交流を積極的に行う。

○子育て支援センター内、屋外あそび好きな遊びを選んで過ごす。

○1年間、同じふれあい遊びを実践(「親子でメリーゴーランド」「とっこ散歩」「バスに乗って」) 継続する事を大切にされ、子どもも保護者も踊りなどを覚えて落ち着いて始める事が出来る。

○トランポリンあそび・トランポリン(大・小) トンネル 巧技台+すべり台(坂道ハイハイ用) 畳のコーナーでも絵本やままごと遊びなど自分の好きな遊びを選んで楽しむ。

○終わりの会・ふれあいあそび「ドラえもん」

②実践交流会 (11:30~13:00)

各園の活動報告 (6施設 9名参加)

・鞆こども園「笑いの広場(地域住民との交流)」の紹介。地域の中で子育てする大切さその方法などの交流。

地域に根ざした施設となるように、地域の様々な方と繋がり、園を知っていただく事が大切。

・園での子育て支援活動については、子育て支援担当者と保育担任との理解と協力が不可欠。園全体で課題意識を持ち、職員が協力して活動をしたい。

広島県子育てサポートステーション いくたす
子育て支援施設見学 実践交流会(2014.11.6～21)

2) 広島県子育てサポートステーションいくたす福山 2014.11.12(水)

①実践活動見学内容 (10:30～11:30)

サーキット遊び(1歳さんあつまれ)

目的:親子で身体を動かして遊ぶなかで、親子共に満足したふれあいの時間を持つ。

遊びを親子で一緒に楽しむなかで、子どもの思いを感じて受け止めようとする。

対象:1歳の子どもとその保護者

(参加人数 保護者10名、子ども10名参加)

<場 所> 福山市入船町 3-1-60

<実施状況> 毎日開所 10:00～16:30(月3日休館日)
子育て講座・一時預かり・子育て相談

<特 徴> 商業施設内の広島県の子育てサポートステーション事業実施施設
平日は母親との利用が主。土日は家族利用が多い。

○11月の歌「やきいもグーチャーパー」「大きなくりの木の下で」を親子で歌う。

○サーキット遊び「リンゴ狩りをしよう」・・・木からリンゴを親子で1つずつ取り、アンパンマンに食べさせる。
待っている人は楽器で応援する。

○「栗ひろいをしよう」・・・小さくちぎった新聞紙の中から栗を見つけ、アンパンマンに食べさせる。

○新聞紙を親子で車に片づける(新聞という家庭にもある身近な素材を使い、家庭でもできる遊びとして提案)

○年齢に応じた、遊びに集中できる環境について考える機会としたい。

②実践交流会 (11:30～12:30)

各園の活動報告 (6施設 9名参加)

- ・きょうだいを連れての利用についての対応は、同じ人ばかりを支援するのは慎みたい。支援者の思いでしてあげるではなく、保護者が何を希望しているかを聞いて行動する事が必要ではないか。
- ・園の子どもとの交流のもち方についてどのようにしているか。園の子どもと交流する目的をしっかりと持ち、園のクラス担任との連携をとるなかで内容をお互いに無理のないように取り組みたい。同年齢の交流は、クラスに入らなくても交流できる方法はあると思う。目的達成のための方法を幅広く考えたらよいのではないか。
- ・相談対応はどこまで答えるべきか。同じ悩みでも解決方法は人それぞれであり、傾聴に努めながらヒントが伝えられると良いと思う。

広島県子育てサポートステーション いくたす
子育て支援施設見学 実践交流会(2014.11.6~21)

3) 地域子育て支援センター にこにこ広場 2014.11.13(木)

①実践活動見学内容 (10:00~11:00)

リズムあそび(2歳児クラス交流)

目的: 2, 3歳児の遊びを体験する事で、同じ年齢の子ども達の姿を知ってもらい、見通しを持った関わりができるようになる。

リズムあそびを通して、楽しさや嬉しさを共感しあう。

対象: 2歳児クラス交流を希望する保護者とその子ども
(参加人数 保護者4名 子ども8名)

<場 所> 福山市千田町 3丁目16-2

<実施状況> <にこにこ広場> 月~金曜日(9:00~14:00)

保育所行事にも積極的参加 参加はメールにて予約

<特 徴> 給食体験、赤ちゃんひろば、ボランティアによる絵本ひろば
千田西保育所との合同行事、地域住民との三世代交流

○にこにこ広場でうたあそび「先生とおともだち」親子でふれあいながら歌う。

○2歳児クラスでリズムあそびをした。保育所の子ども達の後ろに座り、「まつぼっくり」「くじらの歌」を一緒に歌った。また、「あらどこだ」のパネルシアターと一緒に見た。「たらこの歌」は、カスタネットでのリズム打ちを楽しんだ。

○部屋の移動のためにトイレに行く様子を見て、にこにこ広場の子どもの一人と一緒にトイレに行く場面があった。クラスの先生と一緒にいき、抵抗なくトイレに座る姿を保護者が見てとても喜ばれた。保育所の子どもの生活を垣間見れる一コマであり、まさしく保護者の期待したことであった。

②実践交流会 (11:00~13:00)

各園の活動報告 (5施設 7名参加)

- ・スマートフォンを見る保護者に対して、他施設の対応について参考にしたい。(各施設の対応について交流)
見なければならぬ状況なのかどうか、声をかけると良いと思う。掲示物に頼らず、丁寧にその都度声かけする事が大切。
- ・気になる子ども、保護者に対しての対応に苦慮している。対応について参考にさせて欲しい。
福山市の保健師と連絡を取り、どのような対応をしたらよいのか相談するとよい。子どもだけでなく、様々な角度からの支援が必要な保護者も多にいる。支援者だけが抱え込まず、市の援助を受けながら施設としての取り組み方を考えたい。
- ・子ども・子育て支援新制度について学習をした。

広島県子育てサポートステーション いくたす
子育て支援施設見学 実践交流会(2014.11.6～21)

4) 地域子育て支援センター「ピーチひろば」 2014.11.18(火)

①実践活動見学内容 (10:00～11:00)

栄養士の楽しい話「手作りシュウマイ」(実演および試食)

目的:メニューのレパートリーを増やす。

普段つくった事のないような「シュウマイ」を、
得意料理の一品にする。

対象:1歳以上の子どもとその保護者

(参加人数 保護者11名 子ども14名)

<場 所> 福山市神辺町下竹田 54-3

<実施状況> <ピーチひろば> 火・水・金曜日(年齢別に曜日設定)

地域情報誌、地域住民へ回覧など広く情報公開

<特 徴> 月に2回、年齢別で栄養士の調理実演、相談日を設ける

英語あそび、体操など外部講師による講座も実施

○名前を受付用紙に記入し、自由遊び。

○大型絵本を読んだ後、子どもは保護者の膝の上に座って実演見学。

○栄養士によるレシピ紹介及び実演調理。低机の上で、実際に目の前で材料をきざんだ。毎月0歳と1歳以上に分けて栄養指導をしているので、子ども達は落ち着いて膝の上で見学する事が出来た。全員で試食。室内には作り方の工程の写真を貼ったレシピが掲示されていた。通常は12時まで、栄養士を加えて栄養相談を行う。

②実践交流会 (11:00～12:00)

各園の活動報告 (5施設 6名参加)

- ・子育て支援センターの環境について考えた。保育所の行事等で、専用スペースとして使用できない時期がある。他施設の工夫について交流した。
- ・保護者のマナーについて考えてみた。部屋の使い方、子ども同士のトラブル、携帯電話の使用など様々な状況に対して交流。ルールを伝える方法について考えた。掲示よりも、その都度丁寧に説明する事が大切ではないか。
- ・保護者からおもちゃや絵本の寄贈があるが、他施設での取り組みについて知りたい。子育て支援にて、「かえっこバザール(交換会)」を実施。社会福祉協議会への寄付も含めて、情報を集めてみると良い。
- ・利用料については無料ではあるが、材料費もかかっている事を保護者が知ることも必要ではないか。

広島県子育てサポートステーション いくたす
子育て支援施設見学 実践交流会(2014.11.6～21)

5) 地域子育て支援センター「うさちゃん広場」 2014.11.20(木)

①実践活動見学内容 (10:30～12:00)

身体測定

目的:身長・体重・胸囲・頭囲を測り、成長を喜ぶと共に、
測定後も地域子育て支援センターを開放し、保護者同士
子どもたち同士のつながりの場としていく。

対象:未就園の子どもとその保護者

(参加人数 保護者50名 子ども60名)

| | |
|--------|--|
| <場 所> | 福山市駅家町大字万能倉 463-1 |
| <実施状況> | <うさちゃん広場> 毎日活動(9:00～15:00) 北部市民センターでの活動、日曜日園庭開放 |
| <特 徴> | 地域児童民生委員と積極的に交流ともに実践 北部地域6施設、持ち回りで地域へ向けた通信の作成 |

○地域の児童民生委員の方に協力をしていただいて測定。支援センターの真ん中に測定器を置き、周りで自由あそびをしながら測定。測定が終わった人から着替えて園庭での自由あそび。

○園舎全体が見渡せる園庭で、子どもの遊びを見守りながら保護者は談笑。室内では、低年齢の子ども達が民生委員さんや支援者の手作りのおもちゃ(スナップあそび、ポットン落とし等)や電車などで遊びながら保護者交流。

②実践交流会 (11:30～12:30)

各園の活動報告 (4施設 7名参加)

- ・地域の民生委員さんの協力についてきいた。市民センターでのおでかけ保育時に協力をいただく事で、地域の子どもの様子を知っていただいている。子育て支援には、地域の人協力が不可欠で、機会を作ってお互いに声をかけて実践している。
- ・地域での施設連携について。北部地域の6施設が持ち回りで通信を作成している。広い地域の子育て支援情報がわかる事で、保護者の方により幅広く情報提供ができる。
- ・保育所の子どもの交流についての意見交流。保育所の行事への参加の施設有り。クラスに入って交流する際には、クラス担任との綿密な連携が必要。クラスでの保育と、支援活動は別であるとのクラス担任の考えに対して、どのように啓発するかは課題である。

今後在園児が増加する事は必須であり、特に3歳未満児に顕著であると予想される。子育て支援に参加する子どもは、まさにその年齢で、クラスに入っただけの交流については意味を深く考えて取り組みたい。保護者になにを伝えたいか、クラス担任になにを考えて欲しいか、その接点の中でできる事を取り組みたい。

広島県子育てサポートステーション いくたす
子育て支援施設見学 実践交流会(2014.11.6~21)

6) 地域子育て支援センター「ほいくの園」(ふれあい広場) 2014.11.21(金)

①実践活動見学内容 (10:00~11:00)

サーキット遊び

目的:全身を使って遊び、身体を動かす楽しさを味わう。

対象:1~2歳の未就園の子どもとその保護者

(参加人数 保護者12名 子ども15名)

| | |
|--------|--|
| <場 所> | 福山市御幸町中津原後平 54-4 |
| <実施状況> | <ふれあい広場> 毎日活動(年齢別に曜日設定) 地域の公園でのおでかけ保育 マタニティーサークルも随時実施 |
| <特 徴> | 千田保育所との合同行事、地域住民との三世代交流 子育て支援グループ「ほいくの園」イトーヨーカドー月1回おでかけ保育 |

○保育所の行事への参加(交通指導)

○自由あそび後、ふれあいあそび「一本橋」「どんぐりころころ」。保護者の膝の上に座って一緒に歌った。これからのサーキット遊びへの興味づけでもある。(マットを使ってどんぐりになる)

○サーキット遊び(椅子の平均台、マットを転がる、すべり台、トンネル、バランスマット)ぶつからない様に自分のしたい所で楽しむ
保護者は、危険のないよう横で見守りながら補助。ほとんどが全ての場所を回って楽しんだ。

○絵本「だるまさんの」継続的に同じ本を読むことで、子ども達も膝の上で読んでもらう事を喜ぶようになった。内容も簡単なくりかえしのあるものを選択している。

②実践交流会 (11:00~12:30)

各園の活動報告 (7施設 9名参加)

- ・年齢をわけた活動について交流。0歳児も含めるとお互いに危険な場面が見られる。年齢差があると、ふれあい遊びでもできないものもある。0.1歳にはゆったり落ち着いた環境を作りたいと思う。反面、いろいろな年齢が混じる事で刺激し合ってできるようになる事もある。全て年齢別にする必要はなく、臨機応変に加えていくと良いのではないか。
- ・父親向けの講座、サークルの実施について。母親がほとんど子育てしているので、父親に子どもの成長を知らせる事は必要。子育てを手伝うというより、親としてどんな子育てをしたいか、悩みはないか等細やかな援助をすればよいと思う。
- ・地域との交流について。(地域住民協力講座)
- ・保護者にむけた写真を貼った日誌の紹介。

(9) 広島県子育てサポートステーションいくたすの成果と課題

●いくたす福山

| | |
|--|---|
| <p><成果></p> <p>①福山市内の子育て支援内容に対してスタッフが理解し、利用者に対して幅広く施設紹介ができるようになった。</p> <p>②さまざまな人との出会いにより、子育て資源を知ることができた。</p> <p>③一時預かりを積極的に行う事により、子育て中の保護者のリフレッシュおよび用事に対する支援ができた。</p> | <p><課題></p> <p>利用者が多すぎる時間帯には、人数制限をせざるを得ない時がある。一人でも多くの方がいつでも気軽に利用できる環境整備について課題が残る。</p> |
|--|---|

●いくたす府中

| | |
|---|--|
| <p><成果></p> <p>①子育て支援施設として、府中市民に広く認知された。周辺施設の子育て施設の情報を積極的に受け入れ、子育て家庭に積極的に情報を知らせ、利用について啓発できるようになった。</p> <p>②地域のNPO法人との共同の行事を通して地域性を把握し、子育て家庭への関わりの広がりが出来た。</p> | <p><課題></p> <p>・利用人数が伸び悩んでいる。利用者の支援に対するニーズを把握し、それといくたすとしての役割の共通点を見つけ、魅力的な施設となるよう今後も努力が必要。</p> <p>・地域の子育て支援施設との共通点と相違点を見つけ、地域と一体化した取り組みについて考える。</p> |
|---|--|

●いくたす全体を通して

| | |
|-------------------|---|
| <p><成果></p> | <p>①広島県子育てサポートステーション事業として幅広く子育て親子を受け入れ、広く認知された。</p> <p>②スタッフは、日々の保護者との関係を通して、利用者への「寄り添い」をこころえ、相談スキルがアップした。</p> <p>③子育て講座の立案・実践を通し、スタッフの保育力が上がった。</p> <p>④備後地域の子育て支援活動従事者の研修会で、さまざまな施設との交流を通して施設同士の交流の橋渡しができた。</p> |
| <p><課題></p> | <p>①広島県子育てサポートステーション事業として、今後の取り組み方を考えたい。</p> <p>②備後地域の子育て支援活動施設の実践交流会を継続し、大きな地域として子育て家庭を支援していく各施設の支援者と共に方法を考える。</p> |

(10) 子育て支援活動全体における 今後の課題

1、新制度の理解 と それに対応できる活動

まずは支援者自身が、子ども子育て支援新制度について十分な理解をする事が重要である。しかしながら、現在もまだ具体的に決まっていない事項もあり、引き続き情報収集は必要になる。今後研修機会も増えるかもしれないので、積極的に参加をしたい。

また、従来の地域子育て支援拠点事業の他に、利用者支援事業もスタートする。従来の活動の中でも包括的に取り組んでいた分野も多いが、「地域連携」など、より地域資源の活用と連携ができるように、関係各所と人間関係を築くことも重要である。また、それらのネットワークを活かした利用者支援は、今後より専門的な活動になると思われる。子育て支援活動は、遊び場など集うひろばづくりだけにとどまらず、利用者支援として悩みを聞き、助言したうえで専門機関へつなげたり、具体的な施設の利用の斡旋や必要な情報の提供などをする機能も求められるようになるので、それらに対応できるよう各支援施設間の情報共有も必要となってくる。

2、課題の共有 と 研修への取り組み

実践交流会については、近隣の子育て支援施設の職員が集まって研修が出来る事はとても意義があり、今後も継続して実施できればと願っている。また、研修においても、参加者が支援活動の課題の共有ができることが大切だと感じている。子育て支援活動従事者の研修会では、参加者からの声をもとに研修内容を考え、目に見える形で施設の活動内容の向上や課題解決につながるようにしたい。

また、保育所併設型の地域子育て支援センターが孤立することなく、情報交換できるように様々な形での交流を模索できないか。

3、子育て支援者育成 と 効果的な活動ができる組織づくり

子育てに興味がある学生や一般の方のボランティアを積極的に受け入れ、これからの子育て支援者の育成のために努め、地域で広く子育て支援活動ができるようなつながりを作っていかなければならない。一例として、学生ボランティアを積極的に受け取り、子育て支援の重要性を理解できる保育者となるための小さな一歩を踏み出せるよう門戸を広げていきたい。

また、新制度が始まり、複雑多岐に渡る情報収集や地域を面として捉えて、子育て中の親子の様々なニーズやシグナルを見落とすことのないようなネットワークづくりや、施設が協力して人材の育成に努める環境づくりが大切ではないかと思われる。